慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	多角化の成果と方向性に関する実証研究
Sub Title	
Author	今井秀之(Imai, Hideyuki) 高橋吉之助
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1984
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1984年度経営学 第323号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001984-0323

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0323

学生氏名　今井秀之
（ライオン株式会社）
所属ゼミナール　矢作恒雄研

主査　高橋吉之助
副査　奥村昭博
矢作恒雄

多角化の成果と方向性に関する実証研究

本研究では多角化を以下の様に捉えて研究を行なった。

(1) 多角化を企業の持つ経営資源の異質性という点に注目し、多角化と多様性とに分けて経営成果との関係を明らかにする。

(2) 経営者の管理範囲という点からも経営資源の異質性を捉えることで、多角化と経営成果との関係をみた。

そこで「多様性」を「静的な企業の持つ経営資源の異質性の度合である」としルメルト（１９７４）の尺度を用い、「多角化」を「企業の多様性が増加するプロセス自体」と定義した、尺度には加護野（１９７８）の関連指標を用いた。又管理範囲からの測定尺度にはハーフィンダル多角化用指数を用いた。

主な仮説として「多様性の度合と経営成果との関係には正の相関があるが、多様性がある点に到達すると低下しはじめる」、「方向性について技術関連多角化は他と比べて経営成果に良い影響を与える」をあげ日本の上場企業２００サンプルで分析を行なった。

その主な結果としては成長性と多様性には正の相関がありそうであるが、その他の経営成果については、仮説は支持されなかった。方向性については多重共線性回避から全社的方向性は得られなくなったが、多角化プロセスごとの方向性を検討することでこの仮説を説明している。